



★SCHOOL NOW!★

学校だより

令和4年6月1日発行 第3号 校長 大野 友己

守口市立庭窪中学校

〒570-0002 大阪府守口市佐太中町 4-1-7

電話：06(6902)6951/Fax：06(6907)2667

Eメール：niwakubo_j.h.s@moriguchi-osk.ed.jp

1学期もあと35日！自分を見つめて！



1年生は初めての中間テストが終わり、その結果に一喜一憂していることと思います。まずは、各教科のどこが十分理解できていなかったのか、積み残しをつくらないために、一日一日の授業と家庭での学習時間を確保しながら、取組んでほしいと思います。3年生は中間テストが終わったのも束の間、3日には、第1回の実力テストがあります。今までの学習内容が範囲となり、進路選択に向け『今の時点での自分の力』を測り、これからの学習意欲や見通しをもついい機会にしてほしいと思います。2年生は、この2ヵ月どう過ごせていますか。1年生の姿を見ながら、自分の成長を感じている人もいるでしょう。でも中学生生活1年を終えたことで、『中だるみ』に陥っている人はいませんか？自分を見つめなおし、学習でも部活動でも、家庭生活でも、もっと伸びようとする意欲を持ってほしいと思います。そんな2年生の姿は、きっと後輩からの信頼や憧れにつながり、進路決定の向かう3年生からは、頼もしい存在に映るのではないのでしょうか。どの学年も一日一日を大切に過ごして行きましょう。

また新型コロナウイルス感染状況は、爆発的な増加は見られず、大阪府では2,000~3,000人と横ばいの感染者数が続いています。大阪のシンボル「通天閣」も府の基準がグリーンステージになった証の緑色にライトアップされています。加えてマスクの着用については、大阪府を通じ市教育委員会から①身体的距離が十分に確保できる場合②気温・湿度や暑さ指数が高い日③体育の授業④熱中症リスクが高い夏場における登下校時などマスクの着用が不要な場面と示されています。その趣旨をふまえつつ感染予防を継続しながら教育活動を継続

していきます。



マスク着用



定期的な換気



換気もしよう



うがい



手洗い洗浄



毎朝の検温

6月

主な行事予定



1日(水)

1・3年耳鼻科検診 9:00

⑥生徒集会 一斉退庁日

2日(木)

歯科検診 AM

3日(金)

3年実力テスト

6日(月)

諸会費振替日 心臓二次検診

7日(火)

携帯安全教室

8日(水)

3年眼科検診 14:00

一斉退庁日

14日(火)

PTA 実行委員会 19:00

15日(水)

テスト1週間前 一斉退庁日

16日(木)

公開授業⑤3年生がん教育講演

⑥進路説明会

17日(金)

公開授業

22日(水)

期末テスト 一斉退庁日

23日(木)

期末テスト ※沖縄慰霊の日

24日(金)

期末テスト ③生徒会熟議 各種委員会

29日(水)

1年眼科検診 14:00 一斉退庁日



学ぶことって . . . !

「オール1から教師になった『宮本 延春(まさはる)』さん」という人の話をしたいと思います。

宮本さんは小学校2年生の時にいじめに合い、勉強嫌いになりました。家庭の都合で転校が多く、中学校卒業の時には「オール1」の成績で、漢字は自分の名前だけ、英単語は「book」のみ、九九は2の段まで。大工見習の仕事に就きましたが、18歳で両親を亡くし、極貧困な生活を送っていました。23歳のある日、テレビで物理学者“アインシュタイン”の番組を見て「物理学を知りたい」と思い国語辞典を見ながら物理学の本を読んでいたそうです。物理学を学ぶには算数・数学が必要だとわかり、小3の算数ドリルを買い勉強し始め、定時制高校に入学し27歳で卒業後、名古屋大学物理学部に合格し、36歳で豊川高校の教師になりました。そんな



彼は「勉強はいったい何のためにするのか？」の問いに次のように答えています。

『学校でさまざま学ぶ知識はこれから出逢うトラブルや出来事を受け止め、それを解決したり、さらに考えを深めたりするために必要な基礎学力だ』とそして、『新たに学ぶことで、知識は広がり、自分の世界も広がる』 庭中生のみなさんどうですか？みなさんの可能性は無限大です！

(※著書：『未来のきみが待つ場所へ』等)

★守口市には『夜間学級』があります。戦争や貧困など様々な理由で義務教育を修了できなかった 16歳から86歳まで、13か国の方々が学んでいます。その生徒さんの書かれた作文の一部を紹介します。



『ランドセルの味』 さつき学園(旧第三中学校) 夜間学級生 北野 幸子さん

昭和十九年秋頃、大阪市から八尾の親戚を頼り疎開することになりました。両親と姉、兄、私、二人の弟、家族七人でした。ますます戦争が激しくなり、通学途中に、空襲警報のサイレンが鳴るようになりました。学校に行くことも、家に帰ることもできず、とにかく隠れました。アメリカ軍の飛行機が、飛行士の顔が見えるほどの低いところで飛びます。大きな爆音にびっくりして、近くの牛小屋に飛び込んだこともあり。そんな毎日、勉強なんてしていたのか思い出せません。大阪市内から被災者が数珠つなぎになって学校にやってくることもあり。背中の防空ズキンも焦げ、頭から血が流れている人がたくさんいました。その中でも、忘れられない光景があります。お母さんが、赤ちゃんを背中におんぶしているのですが、お母さんも赤ちゃんも焦げて、真っ黒でした。私たちの目には、赤ちゃんがもう死んでいるのがわかりました。それでも、お母さんは赤ちゃんをおんぶしていました。そのお母さんが本当に可愛そうやなあと思いました。



ある夜、遠くの方で焼夷弾という爆弾がたくさん落とされました。「きれいやなあ」と言ったら、「何言うてんねん」と父が私の頭を抑えつけました。私は、あまりにも父がこわいので、床下の防空壕に逃げました。子どもだった私には焼夷弾が花火のように見えました。でも、その爆弾の下には、家を焼れたり、死んでしまった人がたくさんいることを父は言いたかったのだと思います。

昭和二十年八月十五日正午。大勢の人々がラジオのあるお店の前に集まりました。みんな膝まずき、天皇陛下の言葉を聞きました。中国で戦争体験した父は、日本が負けるはずないと叫んでいました。大人たちも、みんな泣いていました。私は、もう戦争が終わったのだから、普通の生活ができる。学校で勉強ができると思い、嬉しくてはしゃぎまわっていると、父がすごく怒りました。ところが、戦争後待っていたのは、食べるものもない貧しい生活でした。おまけに、ある日突然父がいなくなったのです。私たちはどうしていいかわかりませんでした。私は、とにかく勉強がしたくて、弟を連れて学校へ行きました。でもお腹が空き、勉強など頭に入りませんでした。何か口に入れたくて、姉のお下がりの牛革のランドセルのベルトを噛みました。毎日、毎日、ベルトがポロポロになるほど噛みました。塩辛い味がして、本当にオイシかったです。そのうちに、私が働かなくては食べていけなくなりました。十二歳から、大きなお屋敷に住み込み、子守りの仕事をしました。ある日、魚屋さんで料理してもらった魚を取りに行くよう奥さんに言われました。見た事もないような立派な魚でした。持って帰ると、奥さんは料理した魚の頭と骨を犬にやりました。私は、奥さんがいなくなると思わずその魚を犬からとって食べました。こんな不公平なことはないと思いました。今の若い人たちには、私のような思いを絶対にさせたくない。

戦争は絶対だめだと強く思っています。今、私は夜間中学で勉強しています。四年前の九月五日、家のポストに入っていた生徒募集ピラを見て入学を決心しました。今、子どもの時に勉強できなかった悔しさを取り戻すために頑張っています。

